



ベジィデザインの奥村真由美さん。「野菜を見て癒やされてほしい、食することで健康になっていただきたい、という思いを込めて野菜ブーケを制作しています」



自宅前の自家菜園で、自身も無農薬野菜を栽培している



雪下野菜の収穫。富山県では2011年から「とやまのカン(寒)・カン(甘) 野菜プロジェクト」をはじめ、冬野菜の生産拡大を図る

「でも、最初の半年はあまり売れませんでした。お客さまに喜んでいただける野菜ブーケをつくりたい、継続して購入いただける商品をつくりたい、そんな思いから、季節の素材を使った限定商品やリクエストにに応じたカスタムデザインの対応を始めまし

た。また、ブログやSNSで野菜を栽培している様子や野菜ブーケの写真、お客さまの声を紹介することで、東京、大阪をはじめ愛知、福岡など少しずつ全国からご注文が増えてきました。母の日の贈り物や誕生日プレゼント、ウエディングブーケ、飲食店の開店祝いなどブーケの用途はさまざまです」

注文は、県内よりも県外からが多い。インターネットで検索してベジィデザインのホームページにたどり着くケースが多いが、買った人が口コミで広めたり、受け取った人が自分が誰かにプレゼントするために注文してくれたりすることもあり。このように販売数が増えていくにしたがって、地元農家との協力関係も広がっていった。

「冬季になると雪国富山では、カンカン野菜と言われる、かぶ、にんじん、プチヴェール、オータムポエム、ヤーコンなどの野菜が甘くておいしい季節になります。富山の気候だからこそできるおいしい野菜も、野菜ブーケを通じてこれからもっと全国にPRしていきたい。これによって富山県の農業に少しでも貢献できたらと思っています」

富山県産野菜を使った野菜ブーケは、こだわりを持って野菜をつくっている富山県の農家の思いも全国に運んでいく。

ベジィデザインは、富山県産のオーガニック(無農薬・有機栽培)野菜を中心に制作した「食べるブーケ(野菜ブーケ)」を富山から全国へ発送している。新鮮で彩り豊かな野菜ブーケは、見て楽しんで数日飾った後は調理できることから、二度楽しめる贅沢なギフトとして注目を集めている。このビジネスには、農家がこだわりの持つてつくっている富山の野菜を、全国の人にもっと知ってもらいたいという思いも込められている。

ライストアを開設した当初は奥村さんの子どもがまだ小さく、安全な野菜を食べさせたいと自宅の前に畑をつくり、無農薬で野菜を栽培していたということもある。だが、野菜ブーケの販売は周囲にはなかなか理解されなかった。「花のブーケがあるんだから、野菜のブーケが売れるわけがない」と、多くの人に言われました。また、農家さんからブーケ用の野菜を仕入れようとしても、野菜ブーケがどのようなもので、どのような野菜が必要かを説明するのも難しかったです。また、ブーケに使用する野菜の大きさや茎の長さなどにこだわりがあり、自分で野菜を収穫したいとお願いしたんです。でも農家さんにしてみれば、自分の畑に他人が入って野菜を採ってほしくはないですね。それに

ブーケに必要な野菜の量は少ないので、大量に販売したい農家さんの思いとは合致しませんでした」

奥村さんはそれでもめげず、農業者の勉強会でブーケをPRしたり、県庁の農業関係の課に相談に行き、農業者が集まる場があったら紹介する機会がほしいと頼んだり、できることはなんでもやっていた。また、農家への訪問も重ね、富山県産野菜を使った野菜ブーケにかける自分の思いや、自分も無農薬で野菜をつくっていることを伝え続けた。

「それを理解していただくと、私も野菜好きの仲間の一という感じで受けとめてくれる方が少しずつ増えてきました。また私のブログでブーケに使用した野菜をつくっている農家さんをご紹介したりして、少しでも農家さんのお役にた

てる活動をしました」

そうして、16年8月、本格的に野菜ブーケのネット販売が始まった。

**季節のイベントに合わせ 野菜ブーケをアレンジ**

販売を開始してすぐ、9月末には富山商工会議所主催の新商品・新サービス合同プレス発表会に参加し、マスコミにブーケをPRする機会も得た。その後、地元テレビ局の番組で敬老の日のプレゼントとして紹介されたり、情報誌でグルメなお母さんへの母の日の贈り物として紹介されたりした。これにより奥村さんの野菜ブーケが県内の農家の間で広く知られるようになっていった。

「でも、最初の半年はあまり売れませんでした。お客さまに喜んでいただける野菜ブーケをつくりたい、継続して購入いただける商品をつくりたい、そんな思いから、季節の素材を使った限定商品やリクエストにに応じたカスタムデザインの対応を始めまし



西洋ナスやオクラの品種であるスターオブデビッドなど、珍しい野菜を使っている

「しばらくは講座の講師として呼ばれたら行くということをしていたのですが、その数は少なく、人もなかなか集まりませんでした。そのころ、スマートフォン普及とともに個人ネットショップがブームになり始めていて、これで行ってみたいと思い、2016年夏、野菜ブーケのネット販売をスタートしました」

**野菜ブーケにかける思いを 県内の農家に伝えていく**

奥村さんの野菜ブーケにはオーガニック(無農薬・有機栽培)野菜がベースに使われている。オン

## 富山県のこだわり野菜をブーケにして全国に届ける

社名 ベジィデザイン  
所在地 富山県滑川市  
電話 090-5684-0541  
代表者 奥村真由美  
従業員 個人事業



HPIはこちら

ベジィデザイン

富山県滑川市

**富山県産の野菜の魅力をもっとの人に広めたい**

ベジィデザイン(個人事業)代表の奥村真由美さんは、地元・富山県の出身だが、家が農家だったわけではないという。

「私の両親は旅行会社を経営していて、私はそこで働いていました。当時、富山の食や伝統を体験してもらおう『着地型観光』のツアーを企画したとき、ヤーコンという野菜に出会い、見た目はジャガイモみたくなのに食べるとナシのようなシャキシャキとした歯応えであまりの美味しさに衝撃を受けました。農家さんからこれをPRしたいという話を聞き、富山県の魅力と同時に県産野菜の魅力も多くの人に知っていただきたいと思うようになったのが、会社を始めたきっかけです」と奥村さんは言う。

それから奥村さんは、さっそく野菜ソムリエの資格を取得。そして自宅の畑で野菜を栽培し始め、県内の農家を回っていった。そのなかで、カラフルな野菜や珍しい西洋野菜など、こだわりのある野菜をつくっている農家が多いことに驚き、単に富山県産の野菜を販売するのではなく、野菜ブーケにして贈り物として販売することを思いつく。そこで、フラワーアレンジやラッピングの教室で技術を学んで野菜ブーケに応用した。起業後すぐは、野菜ブーケをつくる教室の講師の仕事をしていった。

「しばらくは講座の講師として呼ばれたら行くということをしていたのですが、その数は少なく、人もなかなか集まりませんでした。そのころ、スマートフォン普及とともに個人ネットショップがブームになり始めていて、これで行ってみたいと思い、2016年夏、野菜ブーケのネット販売をスタートしました」

**野菜ブーケにかける思いを 県内の農家に伝えていく**

奥村さんの野菜ブーケにはオーガニック(無農薬・有機栽培)野菜がベースに使われている。オン